

スマイルメモ

✿ チェックシート ✿ レーダーチャート

あったかさポート

✿ 基本となること ✿ 3つの行動特性

- ・不注意への支援
- ・多動性への支援
- ・衝動性への支援

スマイルメモ チェックシート

○チェックシートは、群馬県教育委員会の「特別な支援が必要な児童生徒のチェックリスト行動面に関する項目A」を参考にして、作成したものである。

○奇数番号は不注意に関する項目、偶数番号は多動性・衝動性に関する項目となっている。

○☆のある欄は、本研究で付け加えた部分である。

○本研究では、クラス全員の様子を見て、a～dに当てはまる人数を入れる。

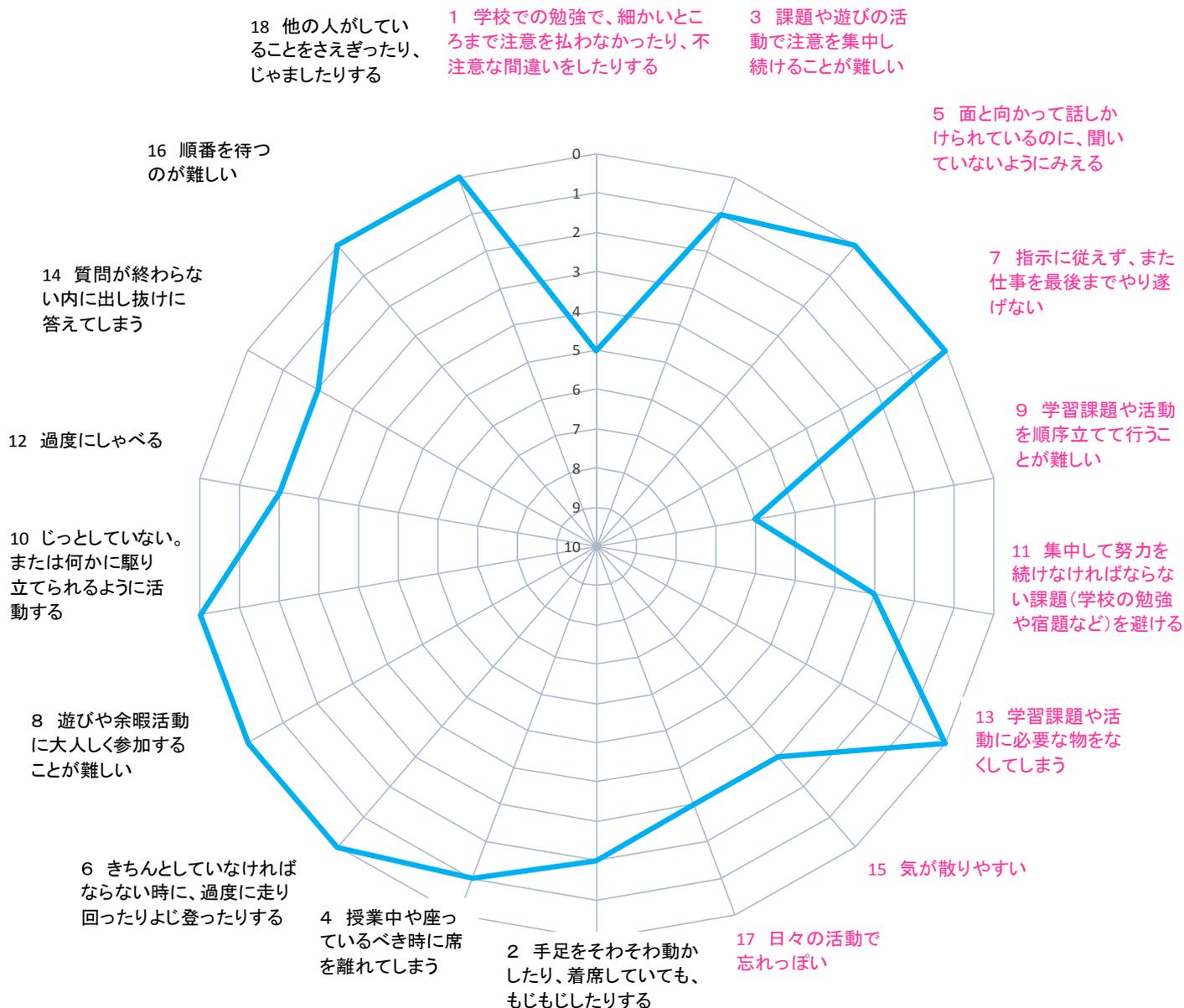
○レーダーチャートには、cとdの合計人数が反映され、グラフ化される。

(人)

No		a ない、ほとんどない	b ときどきある	c しばしばある	d 非常にしばしばある	☆c+d	☆クラス の人数
1	1 学校での勉強で、細かいところまで注意を払わなかったり、不注意な間違いをしたりする						
2	2 手足をそわそわ動かしたり、着席していても、もじもじしたりする						
3	3 課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい						
4	4 授業中や座っているべき時に席を離れてしまう						
5	5 面と向かって話しかけられているのに、聞いていないようにみえる						
6	6 きちんとしていなければならない時に、過度に走り回ったりよじ登ったりする						
7	7 指示に従えず、また仕事を最後までやり遂げない						
8	8 遊びや余暇活動に大人しく参加することが難しい						
9	9 学習課題や活動を順序立てて行うことが難しい						
10	10 じっとしていない。または何かに駆り立てられるように活動する						
11	11 集中して努力を続けなければならない課題(学校の勉強や宿題など)を避ける						
12	12 過度にしゃべる						
13	13 学習課題や活動に必要な物をなくしてしまう						
14	14 質問が終わらない内に出し抜けに答えてしまう						
15	15 気が散りやすい						
16	16 順番を待つのが難しい						
17	17 日々の活動で忘れっぽい						
18	18 他の人がしていることをさえぎったり、じゃましてりする						

スマイルメモ レーダーチャート

年 組 人(男 人、女 人)



レーダーチャートの見方

○チェックシートの「cしばしばある」と「d非常にしばしばある」の合計人数が、それぞれの項目の欠けている部分として表される。

○レーダーチャートが丸く外側に広がるほど、気がかりな姿のある児童生徒は少ないことになる。

○奇数番号は不注意に関する項目、偶数番号は多動性・衝動性に関する項目となっている。

* クラスの合計人数を設定する場合は、グラフエリアの書式設定より、軸のオプション(数字をクリック)で最大値を変更することができる。

あったかサポート

〈教室環境〉

- 5Sを心がける
整理・整頓・整然・清掃・清潔
- 掲示はシンプルに
分かりやすく
- 百聞は一見にしかず
置く場所などに目印を付ける
- 机の配置
- 椅子と机の高さ・座り方
(ゲー・ピタ・ピン)

〈気持ち〉

- ホッとする優しい言葉を
意識的にかける
- 賞賛
名前を呼ぶ、いいね、Vサイン
OKサイン、笑顔
- 評価は肯定的に
- 注意をするなら
短く具体的に
(抽象的な言葉は分かりづらい)
- 不安を取り除く

基本となること

〈仲間意識〉

～こんなことを教えよう～

- みんなちがってみんないい
- 十人十色
- どうぞ(ゆずり合いの心)
- ありがとう(感謝の心)
- ごめんね(素直な心)
- 挨拶・返事を大切に
教師がモデルになる

〈授業〉

- 見通し(45分の流れを示す)
- 板書は見やすく
ポイントを示す
- 視覚支援の活用
- 説明は短く、分かりやすく
身振り手振りを添えて
- 板書での発表
(子どもの活躍の場の一つ)
- 開始と終了の時刻を守る

あったかサポート

3つの行動特性

不注意として見られる行動特性

- ・注意の集中、持続時間が短い
- ・注意を向ける方向が変化しやすい
- ・興味の持続が困難で、興味のおもむくままに行動する
- ・集中して取り組めない
- ・忘れ物が多い
- ・ミスが多い

多動性として見られる行動特性

タイプ1(移動性)

- ・授業中にたびたび席を離れる
- ・教室を飛び出す

タイプ2(非移動性)

- ・手足をもじもじする
- ・きょろきょろする
- ・椅子からずり落ちる

衝動性として見られる行動特性

- ・順番が待てない
- ・他人の行動に割りこむ
- ・遊具などを独り占めする
- ・衝動のコントロールがきかない
- ・がまんができない

あったかサポート

集中できない

- 1 教室前面の掲示物に配慮する
- 2 窓側を避けて前列の席にする
- 3 活動の始めと終わりをはっきり示す
- 4 刺激を使って注目させる
- 5 導入でフラッシュカードなどを使って気持ちづくりをする
- 6 全体指示の後、個別に指示をする
- 7 休憩を入れながら短いスパンでの課題を組み立てる
- 8 問題量、活動量を調整する
- 9 丸付けは持ってくるように促す
- 10 学習形態の工夫
- 11 問題や解答は1枚1問で達成感を味わわせる
- ①「注目する」サインを決めておき伝える
- ②集中が切れてきても混ざらない
- ③やることが分からないようなら教える
- ④児童自身がお手本になる

3.5.11.15

- 12 教師に注目させてから指示を出す
- 13 目標は分かりやすく明確にする
- 14 指示が聞いているか確認する
- 15 指示を視覚でも確認する
- 16 机間巡視で、個別に指導をする
- 17 学習のめあてや取組の手順が分かるワークシートを活用する
- 18 ノートの使い方を指導する
- 19 児童のノートと同じマス目黒板や用紙を使用する
- 20 個別に分かりやすい説明をする

- ⑤具体的に分かる言葉で伝える
ちゃんと × ていねいに ×
はっきり × しっかり ×
ちょっと × どう? ×
- ⑥なるべく短く伝える
- ⑦声かけを心がける

ミスが多い

A 不注意

- ・目標は活動が分かりやすいものに
- ・こまめな声かけ
- ・45分の授業を短いユニットに
- ・導入にひと工夫で引きつける
- ・ノートの使い方を指導する

1.7.9

忘れ物落とし物多い

- 21 貸し出し用の教材や文房具類を用意する
- 22 持ち物に記名する
(鉛筆は2~3本にする)
- 23 配布物はチャック付きファイルで管理する(2枚以内)
- 24 落とし物を入れる専用のボックスを用意する
- 25 持ち物チェックシートや付箋紙を活用する
- 26 朝、1日の予定を確認する
- 27 荷物はなるべくまとめて持つ
- ⑧「貸して」「ありがとう」を習慣にする
- ⑨貸せる物は快く貸してあげる
- ⑩挽回方法を全員で考える。忘れ物0作戦
- ⑪落とし物は専用のボックスに入れる

13.17

- 28 道具の出し入れが簡単にできる工夫をする
- 29 クリーンタイムを1日数回実施する

- 30 片付け方などを絵や写真で示す
- 31 フィニッシュボックスを利用する

- 32 お助け隊で片付け練習をする
- 33 全員持っている小物は牛乳パックをくっつけて一緒に収納する

- ⑫お助け隊で片付けの手助けをする
- ⑬クリーン隊でお手本を見せる
- ⑭教師が準備しておいた片付け方の絵や写真を示す

整理・整頓苦手

13

* □はチェックシートの番号

* 数字は教師から個への支援 丸数字は周りの児童から個へのサポート

集中できない

A 不注意

1	黒板とその周りの壁はすっきり、きれいに
3	「〇分～〇分まで(〇分間)〇〇する」と具体的に言い、視覚的にも示す
4	・手(パンパン) 黒板(コツコツ) 肩(トントン) ・「話をします」
7	新出漢字書き取り5分→(提出)→漢字ドリル10分→(丸付け、提出、首回し)
8	量の調節は、児童と相談して決める
10	ペアを組むときは、一緒にやろうと声をかけられる児童などと組むよう、配慮する
11	付箋紙などを活用して、1枚に1問の回答を書き、その都度提出や丸付けをする

ミスが多い

15	指示したことが後でも確認できるように、紙などに書いて黒板に貼っておく
16	声をかけるときは目線を合わせる
18	・ページはゆったり使って書く ・線は定規を使って引く

忘れ物落とし物多い

22	名前の代わりにマークでもOK
23	・保護者向けの配布物は全員同じチャック付きファイルで持ち帰るようにする
25	・持ち物は「持ち物カード」に記入し、用意したら丸を付ける ・忘れずに持って来られたらほめる
25	・宿題のページが分かるように目印として付箋紙を貼る ・配布物が配られたらチャック付きファイルにすぐしまう
27	教室を移動する教科はノートと教科書を手提げなどに入れてまとめて持つ

整理・整頓苦手

28	・出し入れがしやすい方法で収納を考える ・決められた収納方法が分かるように写真を見やすいところに貼っておく
29	クラス全員で机周りや机の中を整理する
31	終了した授業の教科書などは、箱や袋を用意してその中にしまい、最後にランドセルへ入れる
33	のりやはさみなど

あったかサポート

そわそわもじもじする

- 1 話はなるべく簡潔に話す
- 2 椅子の座り方を教える
- 3 気分転換の時間を確保する
- 4 なるべく多く視線を向ける
- 5 こまめな机間巡視で声をかける
- 6 板書などで気分を変える
- 7 お手伝いを頼むなど、動ける時間を作る
- 8 同一教科の授業の流れを、なるべく同じにする
- 9 手悪さなどをしているときに、注意するよりも今やっている活動に誘う

- ①責めたり指摘したりしない
- ②話す人の顔を見る・口を閉じる・良い姿勢を保ちお手本となる
- ③優しく頑張ってみよう伝える

2.8.10

B 多動性

- ・同一教科の流れを一定に
- ・45分をメリハリのある構成に
- ・授業の始まりを意識させる
- ・視覚的な活用を多くする
- ・授業前後のあいさつをそろってする習慣を身に付ける

- 10 授業の終わりの時間を示して見通しを持たせる
- 11 活動する場所に目印を置く
- 12 黒板での発表や活動を取り入れる
- 13 お手伝いを頼むなど、動ける時間を作る
- 14 落ち着きがなくなってきたら約束しておいた場所や方法で一定時間を過ごす
- 15 教室を出てしまったときの行き場所を決めておく
- 16 45分間をメリハリのある構成にする

- ④責めたり追いかけてたりしない
- ⑤席を離れた理由を聞く
- ⑥今やることを優しく正確に伝える
- ⑦戻れるようなら一緒に戻ってあげる

4.10

授業中に席を離れる

きちんとすべき時できない

- 17 活動前に何をやる時間か確認をする
- 18 次にやる活動や行動を示す
- 19 どんな態度で参加するのが望ましいのかを絵カードなどで伝える
- 20 活動の開始と終了のあいさつを意識させる

- ⑧「並ぶよ」「座るよ」などと具体的な言葉で誘う
- ⑨「廊下は走らない」ではなく、「廊下を歩こう」などと具体的にどんな行動をするかを伝える
- ⑩責めたり感情的に言ったりしない

6

- 21 発言ルールを確認する
- 22 発言カードを活用して、発言して良い時が分かるようにする

- 23 絵カードを利用して静かにすることに気付かせる
- 24 具体的な目標を決めて守れたらほめる
- 25 おしゃべりしても良い時間を伝え、その時間はよく話す
- 26 声の大きさバロメーターを使う

- ⑪口に指を立てて示したり、絵カードを使ったりして、しゃべってはいけないことを知らせる
- ⑫きつい言葉で注意しない
- ⑬しゃべるのをやめたらOKサインなどで認める

8.12

おしゃべりすぎる

* □はチェックシートの番号

* 数字は教師から個への支援 丸数字は周りの児童から個へのサポート

そわそわもじもじする

B 多動性

2	「ゲー」机とおなかの間はにぎりこぶくらい 「ピタ」足のうらは床にぴったりくっつくように 「ピン」背中力は入れずに伸ばす
3	のびをする、首を回す、肩を回す、手首・足首を回すなど(ほめることも忘れずに)
4	「見ているよ」「頑張っているね」などの見守るサインを送る
5	「いいね」「頑張ってるね」「調子いいよ」「できてるよ」など、認める
6	・板書で発表、立って音読(たけのこ読み)など ・ノートは持ってくるように促してチェックをする



授業中に席を離れる

14	・児童と相談して、約束した方法で、気分転換をする ・気分が落ち着いたらほめる
15	・約束しておいた場所で過ごしたり、教室に戻れたりしたらほめて安心感を与える

きちんとすべき時できない

17	活動のめあてを伝えておく
18	・活動前に児童と相談して目標を決めておく ・目標が達成できたらほめる。ほめるときこそ大げさにする

おしゃべりしすぎる

21	<ul style="list-style-type: none"> ・誰かが話しているときは話さないで静かにする ・字を書くときは話さないで書く ・授業前後のあいさつは一度静かになるまで待つ ・話すときは手を挙げて、指名されたら話す ・発言カードが渡されているときは話してよい 		
22	指名したときに発言カードを渡す		
23	静かにすることを伝える絵カードを用意する		
26	となりの人と	グループで	みんなの前で
			
	花の本数は声の大きさバロメーター		

あったかサポート

自分勝手に話す

- 1 話すとき・聞くときのルールを明確にして伝える
- 2 正しく言語化するサポートをする
- 3 自分勝手に話し始めたときに、タイミングよく話しかける
- 4 絵カードを利用して静かにすることに気付くように仕向ける
- 5 発言カードを活用して、発言して良い時が分かるようにする
- 6 教師が話し方のモデルとなって示す

- ①勝手に発言をしたとき、責めるのではなく、ルールを伝える
- ②授業に集中し、勝手な発言も気にしない
- ③ゆずる気持ちも大切

14

C 衝動性

- ・同一教科の流れを一定に
- ・分からない時のルールを教える
- ・活動時間を具体的に示す(○分間、○分まで)
- ・大切な指示は文字で示す
- ・静かな時間を確保する

がまんが苦手

- 7 順番などルールがあることを教える
- 8 「○番目だよ」などと具体的に順番を示す
- 9 最小限のルールから提示し、できたらほめる
- 10 やってはいけないことだと思い出すための手がかりを作る
- 11 割り込みをしたときは「割り込んだよ」と伝える
- 12 同じ教科の授業の流れをパターン化する
- 13 活動時間を具体的に示す

- ④やってはいけないことを優しくはっきり伝える
- ⑤順番を守らなかったときは、責めたりせず教える
- ⑥ルールは次から守ろうと励ます(守れなくても責めない)

16

人によくちよっかいを出す

- 14 座席に配慮する
- 15 ダメなことは短くはっきり伝えて、引きずらない
- 16 人がいやな気持ちになることをその都度教えていく
- 17 誘い方のお手本を示す
- 18 分からないときはどうするのがよいのか教えておく
- 19 静かな環境を確保するために、周りにも注意を促す

- ⑦困ったことがあったら、優しくはっきり伝える
- ⑧言い返したりやり返したりせず先生に伝える
- ⑨責めたりバカにしたりしない

18

友達とのトラブル多い

- 20 座席に配慮する
- 21 グループ編制に配慮する
- 22 トラブルになったときは話をよく聞く
- 23 作業や活動などは基本的に一人で進めさせる
- 24 分からないときはどうするのがよいのか教えておく
- 25 静かな環境を確保するために、周囲にも注意を促す

- ⑩人によって考え方や感じ方の違いがあることを理解する
- ⑪困ったことがあったら騒がずに先生を呼ぶ
- ⑫けしかけたり挑発したりするようなことは言わない

8

* □はチェックシートの番号

* 数字は教師から個への支援 丸数字は周りの児童から個へのサポート

自分勝手に話す

1	【話すとき】 ・手を挙げて ・指名されたら立って ・声の大きさバロメーターに合わせて 【聞くとき】 ・話す人を見て ・最後まで ・まとめながら ・伝えられるように ・言葉を聞こう、心を聴こう
2	児童が好ましくない発言をしたときには、「それはこういうことだね」と発言の真意を読み取り、言い直して伝える
5	指名したら発言カードを手渡し、発言してもよいということが分かるようにする

がまんが苦手

9	・全部できていなくても、できていることをほめる ・ほめるときこそ大きさにほめる
10	触れてはダメな物や入ってはいけない場所には×印カードを貼って、知らせておく
11	「割り込んだよ」「入ってはいけないところに入ったよ」などと分かりやすく伝える

人によくちょっかいを出す

14	・多少のことは気にしないで集中できる児童など、席の周りの児童に配慮する ・前方に配置し、教師の声かけや指導がしやすい座席にする
15	・指導したときにやめたらほめる ・指導するときには真剣に、指導後はすっきり笑顔で受け答えをする
17	「仲間に入れて」「一緒に遊ぼう」などと言って教師が誘い方の例を示す

友達とのトラブル多い

21	・ペア：話をよく聞いてくれたり、やったことを認めてくれたりする児童とペアにする ・グループ：励ましながら一緒に進めることができる児童を同じグループにし、トラブルになることが多い児童とは一緒にならないように配慮する
22	双方の話をよく聞き、それぞれの言い分を受け入れてから話をする

算数科学習指導案（4年）

平成26年11月19日（水曜日）第1校時4年教室

1 単元名 広さを調べよう

2 考察

(1) 教材観

本単元「広さを調べよう」は学習指導要領の内容〔B 量と測定〕の『（1）面積について単位と測定の意味を理解し、面積を計算によって求めることができるようにする。』と〔D 数量関係〕の『（2）数量の関係を表す式について理解し、式を用いることができるようにする。』ことをねらいとしている。

児童は1学年で面積の比較などの活動を通して、面積の意味や測定についての理解の基礎となる経験をしてきた。また、「長さ」「かさ」「重さ」などの学習で「直接比較」「間接比較」「任意単位による測定」「普遍単位による測定」という測定の4段階についても経験し、数値化することを学んできている。広さについては第4学年で初めて触れる。そこで、本単元では、広さも単位正方形のいくつ分と見ることによって、数値化できることを理解させることが主なねらいである。長方形と正方形の求積公式は小学校で扱う初めての公式なので、十分に意味を考えさせたい。また、既習事項をもとに公式を導くまでの考え方や、公式を活用して複合図形の花積を求める際の考え方を、個人で考えたり、ペアやグループなど様々な形態において他者と考えを交流させたりすることで、本単元のねらいである「面積についてその単位と測定の意味を理解し、長方形及び正方形の花積の求め方について考え、それらを用いて面積を求めることができる」に近づけたい。

(2) 児童の実態及び指導方針

① 実態

本学級は少人数であるため、お互いの個性を理解し、認め合える学級である。児童は、明るく素直で学習にも努力できる児童が多い。しかし、算数においては、苦手意識をもっている児童もいて学習への取り組み方に影響している。他教科に比べると学力差があり、学習内容の定着には個別の支援が必要である。また、不注意や多動性などへの適切な支援も必要である。

② 指導方針

- ・問題を正しく読み取り、イメージできるよう、分かっていることや聞いていることに線を引いたり、既習の内容と比べたりする。
- ・全員が見通しを立てられるように、考える時間を確保するとともに、机間巡視をこまめに行いながら個に応じた指導をしたり、全体で交流させたりするなど、支援を工夫する。
- ・全員が自力解決できるよう、ヒントカードやワークシートを工夫する。
- ・交流の場面に必要な「話す・聞く」の技能や態度を意識させ、スムーズな意見交流を促す。
- ・集中して学習に取り組めるように、フラッシュカードなど、短いスパンでの課題を取り入れる。
- ・板書や発表など児童の活動を多く入れ、達成感や自信をもたせるよう支援する。

3 研究との関わり

本研究では、障害のあるなしにかかわらず、学習上・生活上に困難を抱え、特別な支援を必要とする児童が落ち着いて学習するために、適切な支援をまとめる。本単元では、児童の実態をより細かく把握し、生活場面との関連を意識したり、操作活動を取り入れたたりして、児童の実態に合った指導法を工夫する。また、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考える活動を取り入れ、児童の興味関心を高め、落ち着いて学習するための支援を考えていく。

4 単元の見目

面積について単位と意味を理解し、面積を計算によって求めることができるようにするとともに、面積についての量感を豊かにする。

5 指導計画（全10時間予定）

評価基準	関心・意欲・態度	面積を数値化して表すことよさや、計算によって求められることの便利さに気づき、身の回りの面積を求めるなど生活に生かそうとする。		
	数学的な考え方	面積について、量や乗法の学習を基に、単位の何こ分で数値化して表すことや、辺の長さを用いて計算で求められることを考え、捉えることができる。		
	技能	長方形、正方形の面積を、公式を用いて求めることができる。		
	知識・理解	面積について、単位と測定の意味や、長方形や正方形の面積は計算によって求められることやその求め方を理解し、面積についての量感を身に付ける。		
時間	主な内容	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
		知識・技能等	思考力・表現力等	
第1時 ～ 第2時	広さの 表し方	<ul style="list-style-type: none"> 任意の単位を用いて、面積を数値化して比べることができる（技） 面積の意味や面積の単位「平方センチメートル（cm^2）」を理解している。（知） 		<ul style="list-style-type: none"> いろいろな方法で面積を比べる。 面積の単位「平方センチメートル（cm^2）」を知り、面積の意味を理解する。
第3時 ～ 第5時	長方形 と 正方形 の面積	<ul style="list-style-type: none"> 面積の公式を用いて、長方形、正方形の面積を求めることができる。（技） 面積の公式を用いて問題を解決することができる。（技） 	<ul style="list-style-type: none"> 複合図形の面積の求め方を、既習方法から考え、図や式などを用いて説明している。（考） 既習の長方形や正方形の面積を求める学習を活用するよさを認めている。（関） 	<ul style="list-style-type: none"> 長方形や正方形の面積の求め方を考え、公式をつくる。 面積の公式を活用し、面積を求める。 複合図形の面積の求め方を考え、面積を求める。
第6時 ～ 第8時	大きな 面積の 単位	<ul style="list-style-type: none"> 大きな面積の単位とその相互関係を理解している。（知） 	<ul style="list-style-type: none"> 正方形の1辺の長さと面積の関係（1辺の長さが10倍になると面積は100倍になる）を見だし、説明している。（考） 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな面積の単位を知り、面積の単位の相互関係を理解する。
第9時 ～ 第10時	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を適用して、問題を解決することができる。（技） 基本的な学習内容を身に付けている。（知） 		<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を適用し、問題を解決する。 学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。

6 本時の展開（7／10）

(1) ねらい

辺の長さがmの場合も、長方形や正方形の面積の公式が適用できることを理解する。

(2) 準備

教師：1 m²の紙 1 m物差し ビニールテープ 巻き尺

(3) 展開

学習活動 □予想される児童の 反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価	あったかサポートの活用 基本：基本となること A：不注意への支援 B：多動性への支援 C：衝動性への支援
1 既習事項の復習 をする。 (かけ算九九)	5 分	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢、目線に気を付けて授業開始の挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ゲー・ピタ・ピン」を伝え、座り方の確認をする。(B-2) 気分よく算数の授業を始められるように、フラッシュカードを活用し、テンポよく答えられるようにする。(A-5)
2 本時の学習課題 を把握する。		<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を板書し、「4年教室」に下線を引き、めあてをより意識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習活動の流れを黒板に示し、見通しをもたせるとともに、活動中のものに磁石などで目印をする。(基本)
4年教室の面積を求めよう。			
○教室のように広い 場所の面積を求め ることを知る。		<ul style="list-style-type: none"> これまでの課題と違うところを問題文と図から考えて、1 m²を単位として考えることを確認する。 自分たちの教室の面積を考えることを課題にすることにより、児童の興味・関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞紙で作った1 m²の紙を見せて、1 m²の大きさを確認できるようにする。(基本)
2 教室の面積を求 める。 ○グループ活動で必 要な長さを測る。 ○各自で計算して面 積を求める。	15 分	<ul style="list-style-type: none"> 面積を求めるために、何が分かればよいか考える。 巻き尺をグループの数分用意し、それぞれのグループで協力して測れるように促す。 ☆1と☆2の問題を自分の教室に置き換えて、各自で取り組む。 実際の長さが半端だったときは整数で計算することを確認しておく。 測った長さを公式にあてはめて計算するよう伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ編制は、「一緒にやろう」と声をかけられる児童と組むよう配慮する。(A-10) 活動に見通しがもてるよう、ワークシートを用意し、調べること、測った結果、面積を求める式などを書き込めるようにする。(A-6) 面積の公式を書いた用紙を掲示し、繰り返し確認できるようにする。(基本) 早めに机間巡視をして、つまづいているところを確認し、助言する。(A-15) 早く終わった児童は、別の教室の縦と横を示し、mで求めることに慣れるようにする。(A-8)

<p>3 求めた結果を発表し、全体で確認する。</p>	<p>5分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視でノートの確認をして、指名する児童を決めておく。 ・指名した以外の児童は、自分と似ている考え方のところに手を挙げて自分の考えを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の前での発表が苦手な児童には、机間巡視で問題ができていることを認め、発表を促す言葉がけをして、できそうなら指名する。 (A-15)
<p>◇辺の長さがmで表された長方形や正方形の面積も、面積の公式を適用して求められることを理解している。 (発言・ノート) 【知識・理解】</p>		
<p>4 学習のまとめをする。 ○今日の授業で分かったことをまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・広い面積はmを単位として求める。</p> </div> <p>○適用問題に取り組む。</p>	<p>20分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視をしながら、丸を付ける。 ・②については $1\text{ m}^2=10000\text{ cm}^2$、$2\text{ m}=200\text{ cm}$を確認する。 ・③ではペアで1枚、1 m^2の正方形を作成する。 ・新聞紙かビニールテープを使用して作成するよう促す。 ・ビニールテープは床に貼って作成するよう促す。 ・姿勢、目線に気を付けて授業終了の挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と同じマスを用意し、まとめの書き方や、赤鉛筆で四角く囲むことの見本を示す。 (A-18) ・ペアは、落ち着いて学習に取り組んだり、話を聞いたりできる児童と組むように配慮する。 (A-10) ・集中して活動するために、活動するスペースを十分確保する。 ・③では新聞紙かビニールテープを選ばせることにより、活動に対する意欲を高める。 (A-8)

7 板書計画

11 / 19
p 29

◎4年教室の面積を、求めよう。

1 復習
2 調べる
3 考える
4 話し合う
5 問題

調べること

- 教室の形
- 教室のたての長さ
- 教室の横の長さ

面積を求める公式

☆長方形 たて×横＝面積
正方形 1辺×1辺＝面積

〈まとめ〉
○辺の長さがmで表されていても、長方形と正方形の面積の公式をつかって面積を求めることができる。

問題 1

問題 2